

第 3 9 2 回 幹 事 会
公 開 審 議 事 項

令和 7 年 9 月 2 6 日

日 本 学 術 会 議

Ⅲ 公 開 審 議 事 項

件名・議案		提案者	資料 (頁)	提案理由等 (※シンポジウム等、後援関係については概要を記載)	説明者	根拠規定等
1. 委員会関係						
提案 1	(機能別委員会) 科学者委員会 (1)運営要綱の一部改正(分科会の設置期間の変更1件、小委員会の設置1件) (2)小委員会委員の決定(新規1件)	(1)科学者委員会 委員長 (2)会長	5	科学者委員会における分科会の設置期間の変更及び小委員会の設置に伴い、運営要綱の一部を改正するとともに、小委員会における委員を決定する必要があるため。	三枝副 会長	(1)会則第 27条1項 (2)内規第 12条2項、 18条
提案 2	(機能別委員会) 国際委員会 分科会委員の決定 (追加1件)	会長	12	国際委員会分科会委員を決定する必要があるため。	日比谷 副会長	内規第18条
提案 3	(分野別委員会) (1)委員会委員の決定 (追加1件) (2)分科会委員の決定 (追加1件)	第二部長	13	分野別委員会及び分科会における委員を決定する必要があるため。	第二部	(1)内規12 条1項 (2)内規18 条
2. 協力学術研究団体関係						
提案 4	日本学術会議協力学 術研究団体を指定す ること	会長	14	日本学術会議協力学術研究団体への新規 申込のあった下記団体について、科学者 委員会の意見に基づき、指定することと したい。 ①特定非営利活動法人 学習分析学会 ②日本ダンス医科学研究会	三枝副 会長	会則36条
3. 国際関係						
提案 5	第24回アジア学術会 議 海外招へい者の決定	会長	15	第24回アジア学術会議への海外招へい者 を決定する必要があるため。 ※国際委員会 9月25日承認、同アジア学 術会議等分科会 9月12日承認	日比谷 副会長	令和7年度 アジア学術 会議等代表 者の派遣の 基本方針
提案 6	令和7年度フュー チャー・アースに関 する国際会議等への 代表者の派遣の決定 について	会長	16	令和7年度フューチャー・アースに関す る国際会議等への代表者の派遣を決定す る必要があるため。 ※国際委員会 9月25日承認、同フュー チャー・アースの国際的展開対応分科会 9月11日承認	日比谷 副会長	国際学術交 流事業の実 施に関する 内規第57条 5項
提案 7	令和7年度代表派遣 について、実施計画 を変更すること	会長	17	令和7年度代表派遣について、実施計画 の変更をする必要があるため。	日比谷 副会長	国際交流事 業の実施に 関する内規 第21条
4. 学術フォーラム及び土日祝日に講堂を使用するシンポジウム等 【令和7年度第4四半期】						
提案 8	学術フォーラム 「高齢者に優しいま ちづくり：現場・自 治体から学ぶ」の開 催について	健康・生活科学 委員会委員長、 社会学委員会委 員長、環境学委 員会委員会委員 長、土木工学・ 建築学委員会委 員長	18	主催：日本学術会議 日時：令和8年2月7日(土)13:00～ 16:00 場所：日本学術会議講堂(ハイブリッド 開催) ※第一部、第二部、第三部承認	—	内規別表第 2

提案9	学術フォーラム 「STEM 分野の未来を支える多様性とは：教育・探究・キャリアをつなぐ対話―理系の男女差を解決する鍵は、小中教育？家庭？地域？」の開催について	物理学委員会委員長、科学者委員会委員長、情報学委員会委員長、数理科学委員会委員長、法学委員会委員長	20	主催：日本学術会議 日時：令和8年2月21日（土） 開催時刻調整中 場所：日本学術会議講堂（ハイブリッド開催） ※第一部、第三部承認	—	内規別表第2
提案10	学術フォーラム 「くらしを豊かにする化学の力 ―材料と分析の融合が拓く未来―」の開催について	化学委員会委員長	24	主催：日本学術会議 日時：令和8年3月4日（水） 開催時刻調整中 場所：日本学術会議講堂（ハイブリッド開催） ※第三部承認	—	内規別表第2
提案11	公開シンポジウム 「今こそジェンダー主流化を（仮）」の開催について	社会学委員会委員長	26	主催：社会学委員会ジェンダー・世代等の交差と包摂分科会 日時：令和8年2月28日（土）13：30～17：00 場所：日本学術会議講堂 ※第一部承認	—	内規別表第2
提案12	公開シンポジウム 「現代の新生児医療における臨床倫理の考え方と医学的意思決定方法」の開催について	臨床医学委員会委員長、健康・生活科学委員会委員長	28	主催：臨床医学委員会・健康・生活科学委員会合同出生・発達分科会 日時：令和8年3月1日（日）13:00～16:00 場所：日本学術会議講堂（ハイブリッド開催） ※第二部承認	—	内規別表第2

5. その他のシンポジウム等

提案13	公開シンポジウム 「生物の多様性と未来をつなぐ育種学ウェビナーシリーズ【第2回】多様な育種のかたちⅡ ～畜産/人材育成編～」の開催について	農学委員会委員長	34	主催：日本学術会議農学委員会育種学分科会 日時：令和7年10月24日（金）12:00 ～13:30 場所：オンライン配信 ※第二部承認	—	内規別表第2
提案14	公開シンポジウム 「海洋生物と気候変動」（3回シリーズ）の開催について	基礎生物学委員会委員長、統合生物学委員会委員長、食料科学委員会、地球惑星科学委員会委員長	36	主催：日本学術会議基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同海洋生物学分科会、地球惑星科学委員会、食料科学委員会水産学分科会、統合生物学委員会・基礎生物学委員会・地球惑星科学委員会合同自然史・古生物学分科会 学会連合 日時：第1回 令和7年11月10日（月）13:00～16:00 第2回 令和8年3月8日（日）13:00～16:00 第3回 令和8年6月7日（日）13:00～16:00 場所： オンライン開催 ※第二部承認	—	内規別表第2

提案15	公開シンポジウム 「人口減少下の地域福祉と地方自治」の開催について	政治学委員会委員長	40	主催：日本学術会議政治学委員会人口減少下の行政・地方自治分科会、日本地方自治学会 共催：長野県立大学（会場提供） 後援：なし 日時：令和7年11月15日（土）13：30～16：30 場 所：長野県立大学三輪キャンパス北棟講堂（長野県長野市） ※第一部承認	—	内規別表第2
提案16	公開シンポジウム 「社会学のアウトリーチ」の開催について	社会学委員会委員長	42	主催：日本学術会議社会学委員会課題解決のための社会理論分科会、一般社団法人日本社会学会 日時：令和7年11月16日（日）14：00～17：00 場所：一橋大学国立キャンパス（東京都国立市） ※第一部承認	—	内規別表第2
提案17	公開シンポジウム 「今求められる水田の地力向上と病害虫・雑草防除を考える」の開催について	農学委員会委員長	44	主催：日本学術会議農学委員会植物保護科学分科会、農学委員会土壌科学分科会 日時：令和7年11月29日（土）13：00～17：00 場所： オンライン開催 ※第二部承認	—	内規別表第2
提案18	公開シンポジウム 「第15回計算力学シンポジウム」の開催について	総合工学委員会委員長、機械工学委員会委員長	46	主催：日本学術会議総合工学委員会・機械工学委員会合同計算科学シミュレーションと工学設計分科会 日時：令和7年12月2日（火）9：55～17：30 場所： 日本学術会議講堂（東京都港区）（ハイブリッド開催） ※第三部承認	—	内規別表第2
提案19	日本学術会議九州・沖縄地区会議学術講演会「半導体が創る熊本の未来」の開催について	科学者委員会委員長	49	主催：日本学術会議九州・沖縄地区会議 日時：令和7年12月5日（金）15：00～16：55 場所：熊本大学工学部百周年記念館（熊本県熊本市）（ハイブリッド開催） ※科学者委員会承認	—	内規別表第2
提案20	公開シンポジウム 「動物の安楽死を考えるII」の開催について	農学委員会委員長、食料科学委員会委員長、基礎医学委員会委員長	51	主催：日本学術会議食料科学委員会・基礎医学委員会合同獣医学分科会、食料科学委員会・農学委員会合同食の安全分科会 日時：令和7年12月6日（土）15：00～17：00 場所：オンライン配信 ※第二部承認	—	内規別表第2
提案21	公開シンポジウム 「スポーツとは何か — 科学が問いかける身体、社会が求める共生」の開催について	健康・生活科学委員会委員長	53	主催：日本学術会議健康・生活科学委員会健康・スポーツ科学分科会 日時：令和7年12月7日（日）13：00～17：00 場所：早稲田大学リサーチ・イノベーション・センター（121号館）地下1階コマツ100周年記念ホール（東京都新宿区）（ハイブリット開催） ※第二部承認	—	内規別表第2
提案22	日本学術会議中部地区会議学術講演会「これからのモビリティと社会受容性 ～自動運転実用化への課題と挑戦」（仮題）の開催について	科学者委員会委員長	56	主催：日本学術会議中部地区会議 日時：令和7年12月12日（金）13：00～16：40（予定） 場所：名古屋大学坂田・平田ホール（愛知県名古屋市）（仮）（ハイブリッド開催） ※科学者委員会承認	—	内規別表第2

提案23	市民公開講座「ゲノム情報・医療情報・生体試料の共有を巡ってー展望と課題ー」の開催について	統合生物学委員会委員長、基礎生物学委員会委員長、基礎医学委員会委員長、臨床医学委員会委員長	59	主催：統合生物学委員会・基礎生物学委員会・基礎医学委員会合同ゲノム科学分科会、臨床医学委員会臨床ゲノム医学分科会 日時：令和7年12月20日（土）：15:30～17:30 場所：パシフィコ横浜会議センター 5F 503（ハイブリッド開催） （神奈川県横浜市西区） ※第二部承認	—	内規別表第2
提案24	公開シンポジウム「日本文学と藍」の開催について	言語・文学委員会委員長	61	主催：日本学術会議言語・文学委員会日本文学の伝統と現代社会分科会 日時：令和8年1月25日（日）13:00～17:00 場所：京都芸術大学（京都府京都市左京区） ※第一部承認	—	内規別表第2
提案25	公開シンポジウム「みる・きく・はなすの老化と視覚・聴覚最先端治療」の開催について	臨床医学委員会委員長	63	主催：日本学術会議臨床医学委員会感覚器分科会 日時：令和8年2月14日（土）13:00～15:30 場所：オンライン開催 ※第二部承認	—	内規別表第2
提案26	公開シンポジウム「動物科学の最前線：めくるめく多様性を科学する（4）」の開催について	基礎生物学委員会委員長、統合生物学委員会委員長	66	主催：日本学術会議基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同動物科学分科会 日時：令和8年2月15日（日）13:00～16:00 場所：オンライン配信 ※第二部承認	—	内規別表第2

6．後援

提案27	国内会議の後援をすること	会長	68	以下について、後援の申請があり、関係する部に審議付託したところ、適当である旨の回答があったので、後援することとしたい。 ・第20回医療の質・安全学会学術集会	会長	後援名義使用承認基準3(2)ウ
------	--------------	----	----	---	----	-----------------

7．その他

件名						資料(頁)
参考	今後の予定 今後の幹事会及び総会の日程につきご確認ください。次回幹事会は10月27日(月)17:00～開催予定。					69

科学者委員会運営要綱（平成 1 7 年 1 0 月 4 日日本学術会議第 1 回幹事会決定）の一部を次のように改正する。

改 正 後				改 正 前			
(略)				(同左)			
(分科会等)				(分科会等)			
第 2 委員会に、次の表のとおり分科会、 <u>小分科会</u> 及び <u>小委員会</u> を置く。分科会、 <u>小分科会</u> 及び <u>小委員会</u> の設置期限は当該期末までとし、委員長は期首及び適時に分科会、 <u>小分科会</u> 及び <u>小委員会</u> の設置について幹事会に提案する。				第 2 委員会に、次の表のとおり分科会及び小分科会を置く。分科会及び小分科会の設置期限は当該期末までとし、委員長は期首及び適時に分科会及び小分科会の設置について幹事会に提案する。			
分科会等	調査審議事項	構 成	備 考	分科会等	調査審議事項	構 成	備 考
(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)
ジェンダー・エクイティ分科会	(略)	(略)	(略)	ジェンダー・エクイティ分科会	(略)	(略)	(略)
第 6 次男女共同参画基本計画小分科会	(略)	(略)	設置期間：令和 6 年 5 月 31 日～ <u>令和 8 年 9 月 30 日</u>	第 6 次男女共同参画基本計画小分科会	(略)	(略)	設置期間：令和 6 年 5 月 31 日～ <u>令和 7 年 9 月 30 日</u>
(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)
学術研究振興分科会	(略)	(略)	(略)	学術研究振興分科会	(略)	(略)	(略)

	<u>未来の学術振興構想評価小委員会</u>	<u>「未来の学術振興構想」の改訂に資するため、</u> <u>1. 提案される「学術の中長期研究戦略」の評価</u> <u>2. 記載される「学術振興のビジョン」の分類・統合及び「未来の学術振興のグランドビジョン」の取りまとめ案の作成等に係る審議に関すること</u>	<u>90名以内の会員又は連携会員若しくは会員又は連携会員以外の者</u>	<u>設置期間：令和7年9月26日～令和8年9月30日</u>	<u>(新規設置)</u>
(略)					
(同左)					

附 則（令和 年 月 日日本学術会議第 回幹事会決定）
この決定は、決定の日から施行する。

科学者委員会ジェンダー・エクイティ分科会小分科会の設置について

分科会等名：第6次男女共同参画基本計画小分科会

1	所属委員会名	科学者委員会
2	委員の構成	25名以内の会員又は連携会員
3	設置目的	本小分科会の設置目的は、第6次男女共同参画基本計画に向けた提言を、親分科会である科学者委員会ジェンダー・エクイティ分科会においてまとめることができるよう、第1部～3部のジェンダー関連分科会とも協力しつつ、調査・情報整理・素案作成を行うことにある。本小分科会では、提言の項目となる重点課題を整理し、項目ごとに関連する各分科会において対策案をまとめるよう依頼し、それらを統括して提言の素案を作成することを目指したい。
4	審議事項	1. 第6次男女共同参画基本計画における重点課題の整理 2. 第6次男女共同参画基本計画に向けた提言のための素案作成 を行うこと
5	設置期間	令和6年5月31日～ <u>令和8年9月30日</u>
6	備考	※設置期間の延長(令和7年9月30日から上記期限に延長)

科学者委員会学術研究振興分科会小委員会の設置について

分科会等名：学術研究振興分科会未来の学術振興構想評価小委員会

1	所属委員会名	科学者委員会
2	委員の構成	90名以内の会員又は連携会員若しくは会員又は連携会員以外の者
3	設置目的	学術研究振興分科会では「未来の学術振興構想」を改訂するため、提案される「学術の中長期研究戦略」の評価を行うとともに、記載される「学術振興のビジョン」の分類と統合を行い「未来の学術振興のグランドビジョン」を取りまとめることを目指している。分科会での検討を円滑に行うためには、あらゆる分野からそれぞれの分野を専門とする研究者からのインプットや協力が必要不可欠である。そこで、本小委員会では分野別委員会等から推薦される会員、連携会員に加えて、それ以外の者も加え審議を行う。 なお、小委員会における審議に当たっては、透明性を確保し、利益相反が生じることがないように留意する。
4	審議事項	「未来の学術振興構想」の改訂に資するため、 1. 提案される「学術の中長期研究戦略」の評価 2. 記載される「学術振興のビジョン」の分類・統合及び「未来の学術振興のグランドビジョン」の取りまとめ案の作成等 に係る審議に関すること
5	設置期間	令和7年9月26日～令和8年9月30日
6	備考	※新規設置

【機能別委員会】

○小委員会委員の決定（新規1件）

（科学者委員会学術研究振興分科会未来の学術振興構想評価小委員会）

氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考
依田 高典	京都大学大学院経済学研究科研究科長	第一部会員
植木 朝子	同志社大学文学部国文学科教授	第一部会員
勝野 正章	東京大学大学院教育学研究科教授	第一部会員
小長谷 有紀	国立民族学博物館名誉教授	第一部会員
鈴木 基史	京都大学名誉教授	第一部会員
戸谷 圭子	明治大学専門職大学院グローバルビジネス研究科教授	第一部会員
野口 晴子	早稲田大学政治経済学術院教授	第一部会員
芳賀 満	東北大学高度教養教育・学生支援機構教授	第一部会員
早川 誠	立正大学法学部法学科教授	第一部会員
広井 良典	京都大学名誉教授	第一部会員
三成 賢次	一般財団法人阪大微生物病研究会監事	第一部会員
吉岡 洋	京都芸術大学文明哲学研究所教授	第一部会員
磯部 祥子	東京大学大学院農学生命科学研究科生産・環境生物学専攻園芸学研究室教授	第二部会員
岩崎 博史	東京科学大学科学技術創成研究院細胞制御工学研究センター教授	第二部会員
岡田 眞里子	大阪大学蛋白質研究所教授／インペリアル・カレッジ・ロンドン客員教授	第二部会員
北川 雄光	学校法人慶應義塾常任理事、慶應義塾大学医学部外科学教授	第二部会員
竹山 春子	早稲田大学理工学術院教授	第二部会員
玉腰 暁子	北海道大学大学院医学研究院教授	第二部会員
野出 孝一	佐賀大学学長	第二部会員
藤原 康弘	独立行政法人医薬品医療機器総合機構理事長	第二部会員
村上 伸也	大阪大学名誉教授	第二部会員

村山 美穂	京都大学野生動物研究センター教授	第二部会員
山田 泰広	東京大学大学院医学系研究科分子病理学分野教授	第二部会員
山本 晴子	国立研究開発法人国立循環器病研究センター理事	第二部会員
奥村 幸子	日本女子大学理学部数物情報科学科教授	第三部会員、第三部幹事
岸本 康夫	J F E スチール株式会社スチール研究所研究技監	第三部会員
倉本 圭	北海道大学大学院理学研究院教授	第三部会員
腰原 伸也	東京科学大学教育本部特命教授／筑波大学数理物質系客員教授	第三部会員
小藺 英雄	早稲田大学理工学術院教授／東北大学数理科学共創社会センター教授	第三部会員
齋藤 政彦	神戸学院大学経営学部教授／神戸大学名誉教授	第三部会員
三瓶 政一	大阪大学名誉教授	第三部会員
下條 真司	青森大学ソフトウェア情報学部教授、大阪大学名誉教授	第三部会員
田浦 健次朗	東京大学執行役／副学長	第三部会員
竹内 徹	東京科学大学名誉教授	第三部会員
中野 貴由	大阪大学大学院工学研究科マテリアル生産科学専攻教授	第三部会員
中村 卓司	大学共同利用機関法人情報・システム研究機構国立極地研究所教授	第三部会員
福島 孝典	東京科学大学総合研究院教授	第三部会員
宮崎 恵子	一般財団法人 日本舶用品検定協会調査研究部 専任部長（国際担当）	第三部会員
森田 一樹	東京大学大学院工学系研究科マテリアル工学専攻教授	第三部会員
相澤 清晴	東京大学大学院情報理工学系研究科教授	連携会員
浅見 真理	国立研究開発法人国立環境研究所環境リスク・健康領域上級主席研究員・水道水質研究和光分室長	連携会員
飯嶋 徹	名古屋大学素粒子宇宙起源研究所教授	連携会員

石塚 真由美	北海道大学大学院獣医学研究院教授	連携会員
梅津 理恵	東北大学金属材料研究所教授	連携会員
大谷 壽一	慶應義塾大学医学部／薬学部教授／ 慶應義塾大学病院薬剤部長	連携会員
岸本 喜久雄	東京工業大学名誉教授	連携会員
塩見 淳一郎	東京大学大学院工学系研究科総合研 究機構機械工学専攻教授	連携会員
高倉 喜信	京都大学白眉センターセンター長	連携会員
田近 英一	東京大学大学院理学系研究科教授	連携会員
谷口 倫一郎	九州大学名誉教授	連携会員
丹下 健	東京大学特命教授	連携会員
坂内 博子	早稲田大学理工学術院教授	連携会員
前川 知樹	新潟大学大学院医歯学総合研究科高 度口腔機能教育研究センター研究教 授	連携会員
宮川 剛	藤田医科大学研究推進本部総合医科 学研究部門医科学研究センターシス テム医科学研究部門教授	連携会員
宮崎 恒二	大学共同利用機関法人人間文化研究 機構理事	連携会員
山崎 典子	国立研究開発法人宇宙航空研究開発 機構宇宙科学研究所教授	連携会員

【設置：第 392 回幹事会（令和 7 年 9 月 26 日）、決定後の委員数：56 名】

【機能別委員会】

○分科会委員の決定（追加 1 件）

（国際委員会 G サイエンス学術会議分科会）

氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考
尾崎 紀夫	名古屋大学大学院医学系研究科精神疾患病態解明学特任教授	第二部会員
榎本 浩之	大学共同利用機関法人情報・システム研究機構国立極地研究所副所長／特任教授	連携会員（特任）
仁田 工美	国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構（JAXA）安全・信頼性推進部システム安全・軌道利用安全推進ユニット技術領域主幹	連携会員（特任）

【設置：第358回幹事会（令和 5 年11月27日）、追加決定後の委員数：5 名】

【分野別委員会】

○委員会委員の決定（追加 1 件）

（薬学委員会）

氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考
太田 茂	和歌山県立医科大学教授	連携会員
加納 信吾	東京大学大学院新領域創成科学研究科メディカル情報生命専攻バイオイノベーション政策分野教授	連携会員
菅野 純	国立医薬品食品衛生研究所客員研究員・名誉職員	連携会員

【常置（細則第 10 条第 2 項）、追加決定後の委員数：9 名】

○分科会委員の決定（追加 1 件）

（臨床医学委員会脳とこころ分科会）

氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考
花川 隆	京都大学医学研究科脳統合イメージング分野教授	連携会員
三澤 日出巳	慶應義塾大学薬学部教授	連携会員

【設置：第 360 回幹事会（令和 5 年 12 月 22 日）、追加決定後の委員数：38 名】

日本学術会議協力学術研究団体の新規指定について

	団体名	概 要
1	特定非営利活動法人 学習分析学会 (https://jasla.jp/)	本団体は、広く一般市民及び市民団体を対象として、教育・学習・訓練分野における方法論・効果測定・質保証の研究開発・情報化支援・ビジネス創出を対象とし、広く社会に対してこれらの成果の情報提供や普及啓発を行うことにより、国民の能力開発及び雇用機会の拡充に寄与することを目的とするものである。
2	日本ダンス医科学研究会 (https://www.jadms.org/)	本団体の目的は主に以下の 5 つとする。 1. 日本における教育、医学、科学の枠を統合することにより、日本人ダンサーの健康、QOL、トレーニング、パフォーマンスの向上をめざす。 2. 学問的興味からダンス医科学を志向する人たちが知的交流を行う場を提供する。 3. 教育、医学、科学を中心とした研究領域において、ダンサーを対象とした研究活動の活性化を促す。 4. ダンス医科学の研究成果が現場で応用されるために不可欠な研究と現場の交流を促進し、両者の密接かつ良好な関係構築をめざす。 5. 舞台芸術から健康づくり運動まで、ダンスの可能性および有効性を支持するための活動に貢献する。

令和 7 年度アジア学術会議に関する国際会議等への海外招へい者の派遣について

	国際会議等	会 期	計	開催地及び用務地 (※ 1)	派遣候補者 (職名)	備 考 (※ 2)
1	第 24 回アジア学術会議	11 月 16 日 ～ 11 月 18 日	3 日	パキスタン (イスラマバード)	Andrea PIERONI (ポッレンツォ大学民族植物学教授／元学長)	第 1 区分
2					Liaquat ALI (バングラデシュ科学アカデミーフェロー、ポティクリット 健康研究所名誉主任科学者兼顧問)	
3					Looi Lai MENG (マレーシア科学アカデミー副会長、マラヤ大学名誉教授)	
4					Sagatika EKANAYAKE (スリランカ国立科学アカデミー評議員、スリ・ジャヤワル ダナプラ大学医学部上級教授兼会長)	
5					You-Cai Xiong (蘭州大学生態学部教授)	
6					Tepmony SIM (カンボジア工科大学大学院長)	
7					Arnab CHAUDHARY (フューチャーアース・先住民のためのグローバルホーム青 年評議会メンバー／気候変動に関する世界先住民青年サミッ ト 2025 グローバルリーダー)	
8					Neni SINTAWARDANI (インドネシア国家研究イノベーション庁研究教授)	

(※ 1) 現在アジア学術会議には、バングラデシュ、カンボジア、中国、台湾、インド、インドネシア、日本、韓国、マレーシア、モンゴル、ミャンマー、ネパール、パキスタン、フィリピン、シンガポール、スリランカ、タイ、ベトナムの 18 カ国・地域の 31 機関が加盟しており、一年毎に各国・地域が持ち回りで会議を開催。

(※ 2) 令和 7 年度アジア学術会議に関する国際会議等への代表者の派遣の基本方針(令和 7 年 2 月 27 日日本学術会議第 381 回幹事会決定)に基づく区分。

令和 7 年度フューチャー・アースに関する国際会議への代表者の派遣について

番号	国際会議等	会 期		開催地及び 用務地／開催形 式	派遣候補者 (職名)	備 考
			計			
1	第 5 回フューチャー・アース総会 (Assembly)	10 月 6 日 ～ 10 月 7 日	2 日	オンライン	春日 文子 連携会員 (長崎大学大学院熱帯医学・グローバルヘルス研究科／プラネタリーヘルス学環教授)	第 1 区分 (※ 1) 日本ハブ事務局長 ※オンライン出席
					谷口 真人 連携会員 (大学共同利用機関法人人間文化研究機構総合地球環境学研究所教授)	第 1 区分 (※ 1) 日本ハブ・ファンダー代表 ※オンライン出席
					渡辺 知保 連携会員 (長崎大学大学院プラネタリーヘルス学環教授)	

※ 1 令和 7 年度フューチャー・アースに関する国際会議等への代表者の派遣の基本方針 (令和 7 年 2 月 27 日日本学術会議第 381 回幹事会決定) に基づく区分

令和7年度代表派遣実施計画の変更について

以下のとおり、令和7年度代表派遣実施計画(第 381 回幹事会(令和7年2月 27 日)にて承認済)の変更を行う。

	会議名称	会 期	開催地/ 形式等	派遣候補者 (職名)	推 薦	内 容
1	アジア科学アカデミ ー・科学協会連合役 員会	未定 ↓ 10 月 22 日 ～ 10 月 23 日	未定 ↓ クアラルンプール (マレーシア)	佐竹 健治 第三部会員 (東京大学名誉教授)	国際委員会アジ ア学術会議等分 科会	・会期及び開催地の決定 ※オンライン出席に変更

日本学術会議主催学術フォーラム
「高齢者に優しいまちづくり：現場・自治体から学ぶ」
の開催について（案）

1. 主 催：日本学術会議
2. 企 画：健康・生活科学委員会、社会学委員会、環境学委員会、土木工学・建築学委員会
3. 日 時：令和 8（2026）年 2 月 7 日（土）13：00～16：00
4. 場 所：日本学術会議講堂（ハイブリッド開催）
5. 委員会等の開催：開催予定なし

6. 開催趣旨：

エイジフレンドリーシティ（Age friendly cities and communities）は、世界保健機関（WHO）が 2010 年に立ち上げた、高齢者に優しい地域づくりに取り組む自治体等の国際的なネットワークである。8 つのトピックス―「屋外スペースと建物」「交通機関」「住居」「社会参加」「尊敬と社会的包摂（ソーシャルインクルージョン）」「市民参加と雇用」「コミュニケーションと情報」「地域社会の支援と保健サービス」―が設定されている。

本フォーラムではこれらについて、都市部と過疎・高齢化の進む地方それぞれから、先駆的な自治体・地域で展開する団体に現場での取り組みを発表していただき、総合討論では「なぜその取り組みができたのか」「未だ不足しているもの」「他の自治体にも広げていくためには何が必要か」などについて、参加者とアカデミアがともにディスカッションを行い、全国に拡大していくノウハウを学ぶ。

本フォーラムを通じて、高齢化・人口減少が進む日本における、解決につながる方策を探る。

7. 次 第：

コーディネーター

森山 美知子（日本学術会議第二部会員／広島大学大学院医系科学研究科教授）

演題・講演等（予定、交渉中のものも含む。）

総合司会

飯島 勝矢（日本学術会議連携会員／東京大学高齢社会総合研究機構機構長／東京大学未来ビジョン研究センター教授）

伊香賀 俊治（日本学術会議連携会員／慶應義塾大学名誉教授／
一般財団法人住宅・建築 SDGs 推進センター理事長）

開会挨拶・趣旨説明

森山 美知子（日本学術会議第二部会員／広島大学大学院医系科学研究科教授）

趣旨説明『エイジフレンドリーシティについて』

神田 美希子（WHO 西太平洋事務局 WPRO Healthy Environments and Populations
テクニカルリード）

事例紹介

『神奈川県におけるエイジフレンドリーシティの取り組み』

曾我部 勇貴（神奈川県政策局いのち・未来戦略本部室国際戦略グループ）

熊澤 大輔（神奈川県立保健福祉大学イノベーション政策研究センター研究員）

『奈良県天川村（地方部）の取り組み』

山端 聡（奈良県吉野郡天川村議会議員）

『広島県呉市（島嶼部）一般社団法人まめなの取り組み』

更科 安春（一般社団法人まめな Founder）

『自治体保有データとオープンリソースデータの突合解析による政策立案事例』

佐藤 栄治（宇都宮大学地域デザイン科学部建築都市デザイン学科教授）

総合討論

飯島 勝矢（日本学術会議連携会員／東京大学高齢社会総合研究機構機構長／
東京大学未来ビジョン研究センター教授）

伊香賀 俊治（日本学術会議連携会員／慶應義塾大学名誉教授／
一般財団法人住宅・建築 SDGs 推進センター理事長）

まとめ

須田 木綿子（日本学術会議連携会員／東洋大学社会学部社会学科教授）

8. 関係部の承認の有無：第一部、第二部、第三部承認

9. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線は、日本学術会議関係者）

日本学術会議主催学術フォーラム
「STEM 分野の未来を支える多様性とは：教育・探究・キャリアをつなぐ
対話—理系の男女差を解決する鍵は、小中教育？家庭？地域？」
の開催について（案）

1. 主 催：日本学術会議
2. 企 画：物理学委員会、科学者委員会、情報学委員会、数理科学委員会、
法学委員会
3. 日 時：令和 8（2026）年 2 月 21 日（土）開催時間調整中
4. 場 所：日本学術会議講堂（ハイブリッド開催）
5. 委員会等の開催：開催予定なし
6. 開催趣旨：

我が国における STEM（科学・技術・工学・数学）への女子の進出は、世界的に見ても著しく低く、長年にわたる社会的課題となっています。進学率や就業率といった量的側面にとどまらず、その背景には、学童期から積み重なる「理数科目への苦手意識」や、無意識の偏見、情報・体験の不足、そして将来像の不透明さが横たわっています。こうした課題は、個々の進路選択の問題ではなく、教育制度・社会文化・キャリア設計を含む構造的な問題としてとらえる必要があります。

本フォーラムでは、まず教育心理学と社会学の視点から、女子生徒が STEM 分野に対して抱える心理的ハードルや、進路からの“離脱”が生じるメカニズムについて明らかにします。その上で、女子中高一貫校や SSH 高校における具体的な教育実践を紹介し、生徒に“面白さ”や“自分ごと”として科学を届けるための試みを共有します。さらに、合宿形式での探究型学習や大学や学協会主催の科学体験プログラム、物理学・数学・情報科学など多様な分野における先進的な取り組みを通じて、STEM 分野における学びの拡張と社会とのつながりを再発見します。

また、AI や宇宙、気候、課題解決といった分野で活躍する STEM 人材の職業像を紹介し、「理系＝研究者」「女子は理系に向かない」といった古い枠組みを問い直し、STEAM 分野が切り拓く新たな職業の可能性についても紹介し、理系進路の魅力を再提示します。

最後のパネルディスカッションでは、教育・社会・ジェンダー・キャリアといった多角的な視点から、「誰もが STEM を自由に選び、活躍できる社会」を実現するための課題と可能性を議論します。

7. 次 第：

コーディネーター

市川 温子（日本学術会議第三部会員／東北大学大学院理学研究科教授）

新永 浩子（日本学術会議連携会員／鹿児島大学学術研究院理工学域理学系
准教授）

伊藤 由佳理（日本学術会議第三部会員／東京大学国際高等研究所カブリ数物連携
宇宙研究機構教授）

島岡 まな（日本学術会議第一部会員／大阪大学大学院法学研究科教授・副学長）

三枝 信子（日本学術会議第三部会員・副会長／国立研究開発法人国立環境研究所
理事）

演題・演者等（予定、交渉中のものも含む。）

開会挨拶

調整中（文部科学省〇〇）

趣旨説明

新永 浩子（日本学術会議連携会員／鹿児島大学学術研究院理工学域理学系
准教授）

第Ⅰ部：問題提起 - 離脱の構造を読み解く

司 会

市川 温子（日本学術会議第三部会員／東北大学大学院理学研究科教授）

講演1 「STEM 分野におけるジェンダーと多様性の実現に向けて——課題と期待」
調整中（内閣府〇〇）

講演2 「中学生の『数学嫌い』、『理科嫌い』は本当か」

内田 昭利（大分大学大学院教育学研究科教授）

講演3 STEM 分野からの女性の離脱—学童期から高等教育、社会人以降まで
臼井 恵美子（日本学術会議第一部会員／一橋大学経済研究所教授）

第Ⅱ部：学校教育現場からの実践報告

司 会

笠 潤平（日本学術会議連携会員／香川大学名誉教授）

講演4 「数学のワクワクを共有しよう」をテーマにした取り組み

十九浦 美里（お茶の水女子大学附属高校教諭）

講演5 「地方の小中高一貫校が目指すグローバル科学教育——夢のつばさプロジェクトの実践から」

山崎 巧（池田学園）

第Ⅲ部：探究と体験の中で育つ STEAM 的まなび 「自ら問い、つながる学びへ」
司 会

藤井 良一（日本学術会議連携会員／（公財）日本極地研究振興会理事長／
情報・システム研究機構国立研究所特任教授）

講演6 「“夏学”に見る体験型 STEAM 教育の可能性

山本 文子（芝浦工業大学工学部教授）

第Ⅳ部：未来を描く - STEM 分野の新しい職業像 「“理工系の仕事”をもっと自由に」

司 会

伊藤 由佳理（日本学術会議第三部会員／東京大学国際高等研究所カブリ数物連携
宇宙研究機構教授）

講演8 「STEM でつながる未来のしごと——“理工系”の枠を超えたキャリアの形」

鈴木 朋子（日本学術会議第三部会員／株式会社日立製作所専門理事／
研究開発グループ技師長）

第Ⅴ部：パネルディスカッション

コーディネーター

新永 浩子（日本学術会議連携会員／鹿児島大学学術研究院理工学域理学系
准教授）

パネリスト

島岡 まな（日本学術会議第一部会員／大阪大学大学院法学研究科教授・副学長）

横山 広美（日本学術会議連携会員／東京大学国際高等研究所カブリ数物連携宇
宙研究機構教授／副機構長）

腰原 伸也（日本学術会議第三部会員／東京科学大学教育本部特命教授／
筑波大学数理物質系客員教授）

山崎 巧（池田学園副校長）

調整中（文部科学省〇〇）

調整中（内閣府〇〇）

調整中（女子学生）

閉会挨拶

腰原 伸也（日本学術会議第三部会員／東京科学大学教育本部特命教授／
筑波大学数理物質系客員教授）

8．関係部の承認の有無：第一部、第三部承認

9．関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線は、日本学術会議関係者）

日本学術会議主催学術フォーラム
「くらしを豊かにする化学の力 ―材料と分析の融合が拓く未来―」
の開催について（案）

1. 主 催：日本学術会議
2. 企 画：化学委員会
3. 日 時：令和8（2026）年3月4日（水）開催時間調整中
4. 場 所：日本学術会議講堂（ハイブリッド開催）
5. 委員会等の開催：開催予定なし

6. 開催趣旨：

現代社会は、少子高齢化や気候変動といった複雑かつ深刻な課題に直面しています。これらの課題の解決には、科学技術の革新とそれを支える基盤研究の推進が不可欠です。特に、「材料化学」と「分析化学」は、社会基盤を支える科学として極めて重要な役割を果たしており、それらの相互連携によって新たな化学の地平が拓かれることが期待されます。

化学委員会では、第26期より「材料化学分科会」と「分析化学分科会」を統合し、「材料化学・分析化学分科会」として活動を開始しました。本フォーラムでは、この新体制のもと、「マテリアル開拓を支える分析」および「分析技術を支えるマテリアル」といった学術的な視点から、両分野の融合によるシナジーと、それが未来の科学・社会・暮らしにもたらす可能性について多角的に議論を行います。

特に総合討論では、産業界からの実践的な視点も取り入れ、学界との対話を通じて、今後の研究開発の方向性や、社会実装への展望を探ります。分野融合による新しい化学の姿を描き出し、それが私たちの生活をどのように豊かにしていくかを共有することで、科学と社会とのより深い連携を目指します。

7. 次 第：

コーディネーター

栄長 泰明（日本学術会議連携会員／慶應義塾大学理工学部化学科教授）

演題・演者等

趣旨説明

栄長 泰明（日本学術会議連携会員／慶應義塾大学理工学部化学科教授）

基調講演：材料と分析の融合が切り拓く未来（仮題）

谷口 功（熊本県産業政策顧問、公益財団法人くまもと産業支援財団名誉顧問、国立大学法人熊本大学顧問・名誉教授、独立行政法人国立高等専門学校機構理事長）

アカデミアからの講演：「マテリアルを支える分析・分析を支えるマテリアル」
融合領域における新たな科学のかたちおよび相互への期待（仮題）

南 豪（東京大学生産技術研究所物質・環境系部門准教授／卓越研究員）

一杉 太郎（日本学術会議連携会員／東京大学大学院理学系研究科教授）

川崎 ナナ（横浜市立大学大学院生命医科学研究科教授）

総合討論

ファシリテーター

谷口 功（熊本県産業政策顧問、公益財団法人くまもと産業支援財団名誉顧問、国立大学法人熊本大学顧問・名誉教授、独立行政法人国立高等専門学校機構理事長）

パネリスト

杉沢 寿志（一般社団法人日本分析機器工業会技術委員長、日本電子株式会社経営戦略室オープンイノベーション推進室参与）

日下 康成（積水化学工業株式会社 R&D センター先進技術研究所所長）

関根 千津（日本学術会議連携会員／元住化技術情報センター代表取締役社長）

齋藤 公児（日本学術会議連携会員／日鉄テクノロジー株式会社テクニカルアドバイザー）

玉田 薫（日本学術会議第三部会員／九州大学主幹教授・副学長）

8. 関係部の承認の有無：第三部承認

9. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線は、日本学術会議関係者）

公開シンポジウム
「今こそジェンダー主流化を」(仮)
の開催について

1. 主 催：社会学委員会ジェンダー・世代等の交差と包摂分科会

2. 日 時：令和 8（2026）年 2 月 28 日（土）13：30～17：00

3. 場 所：日本学術会議講堂（東京都港区六本木 7-22-34）

4. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無

5. 分科会等の開催：開催予定あり

6. 開催趣旨：

1999 年に男女共同参画社会基本法が制定されてから四半世紀が経過した。

この法律では、「国は、…男女共同参画社会の形成の促進に関する施策（積極的改善措置を含む。以下同じ）を総合的に策定し、及び実施する責務を有する」と規定されている。その際にのっとるべき「基本理念」として、男女の人権の尊重とともに「社会における制度又は慣行についての配慮」が規定されている。後者の理念が踏まえるのは、社会制度・慣行がジェンダー・バイアスを含み、個人の選択に中立でない影響を及ぼすことで、ジェンダー平等化を阻害しかねない、という点である。そこで制度・慣行の影響を中立なものとするよう配慮することが求められる。

これは 1995 年の北京行動綱領で「ジェンダーの主流化」が強調されたことに応じる規定であり、1975 年国際婦人年以来の累次の「国内行動計画」に対して、国・地方公共団体・国民の責務を明示するとともに責務の範囲を画期的に広げるものだった。

しかし、四半世紀後の現在、日本のジェンダー平等の実態は、ジェンダーギャップ指数も示すような世界最低のレベルにある。本シンポジウムではこの実態について、「ジェンダー主流化」という視角から迫り、政府等の取組に求められるものを明らかにして、より強力な取組の構築を呼びかける。

7. 次 第：

・開会挨拶；白波瀬 佐和子氏（日本学術会議第一部会員／東京大学大学院農学生命科学研究科特任教授）

- ・報告 1 ; 大崎 麻子氏 (特定非営利活動法人 Gender Action Platform 理事／国連女性の地位委員会 (CSW) 日本代表／内閣府男女共同参画会議計画実行・監視専門調査会委員／内閣府男女共同参画会議第 6 次基本計画策定専門調査会委員) (調整中)
- ・報告 2 ; 近藤 絢子氏 (日本学術会議連携会員／東京大学社会科学研究所教授) (調整中)
- ・報告 3 ; 村尾 祐美子氏 (日本学術会議連携会員／東洋大学社会学部社会学科准教授)
- ・報告 4 ; 大野 元裕氏 (埼玉県知事) (調整中)
- ・ 大沢 真理氏 (日本学術会議連携会員／東京大学名誉教授) コメント、フロアを含めた討論
- ・閉会挨拶 ; 河野 銀子氏 (日本学術会議連携会員／九州大学男女共同参画推進室教授) もしくは 住居 広士氏 (日本学術会議連携会員／広島国際大学総合リハビリテーション学部客員教授)

8. 関係部の承認の有無：第一部承認

9. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

(下線の講演者等は、主催分科会委員)

公開シンポジウム
「現代の新生児医療における臨床倫理の考え方と医学的意思決定方法」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議臨床医学委員会・健康・生活科学委員会合同出生・発達分科会
2. 共 催：新生児生命倫理研究会
3. 後 援：なし
4. 日 時：令和8（2026）年3月1日（日）13：00 ～ 16：00
5. 場 所：日本学術会議講堂（東京都港区六本木7-22-34）（ハイブリッド）
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：開催予定なし

8. 開催趣旨：

新生児医療においては臨床倫理的な検討が必要になることは稀でないが、新生児医療の現場においてしばらく取り上げられることのなかった新生児の生命維持治療の停止についての議論が2023年と2024年に日本新生児成育医学会学術集会のシンポジウムで行われ、現在、新生児医療を担うスタッフの間では生命倫理及び臨床倫理的な思索に関わる問題意識が大変高まっている。

一方、現代の本邦の新生児医療におけるそれら倫理的課題についてのまとまった解説はほとんどないことから、臨床医学委員会と健康・生活科学委員会二つの委員会合同の出生・発達分科会で、現代の新生児医療の臨床倫理的な課題について、歴史的背景から現状まで総合的に検討を加え、その考え方を提案することとし、また同時に、現在の新生児医療において行われている医学的意思決定方法の問題点についても検討し、どのように行うべきかを「見解」として提案することとした。

そのために、今まで20回を超える分科会会議を行っており、現在「見解」をまとめる最終段階となっている。日本学術会議では意思の表出後のフォローアップが重視されており、その一環として、本分科会では公開シンポジウムを開催し、専門家や一般の方々にこの「見解」を紹介し意見を求める場とすべく、本シンポジウムを企画した。

9. 次 第：

挨拶

13:00 出生・発達分科会委員長挨拶

高橋 尚人（日本学術会議第二部会員／東京大学医学部附属病院小児・新生児集中治療部教授）

第1セッション「見解の説明」

◇第一部司会

藤井 知行（日本学術会議第二部会員／医療法人財団順和会山王病院病院長／国際医療福祉大学大学院・医学部産婦人科学教授）

水口 雅（日本学術会議連携会員／心身障害児総合医療療育センターむらさき愛育園園長）

13:05 見解『現代の新生児医療における臨床倫理の考え方と医学的意思決定方法』

高橋 尚人（日本学術会議第二部会員／東京大学医学部附属病院小児・新生児集中治療部教授）

13:30 当事者研究の視点から

熊谷 晋一郎（日本学術会議第二部会員／東京大学先端科学技術研究センター当事者研究分野教授）

13:45 尊厳の観点から

島蘭 進（日本学術会議連携会員／上智大学グリーンケア研究所客員所員／大正大学客員教授／東京大学名誉教授）

14:00 法的側面

米村 滋人（日本学術会議連携会員／東京大学大学院法学政治学研究科教授）

14:15 小児の臨床倫理の視点から

笹月 桃子（日本学術会議連携会員(特任)／早稲田大学人間科学学術院教授）

休憩（10分）（14：30～14：40）

第2セッション「見解に対する意見」

◇第二部司会

武藤 香織（日本学術会議連携会員／東京大学医科学研究所教授）

古庄 知己（日本学術会議連携会員／信州大学医学部遺伝医学教室教授）

14:40 新生児生命倫理の立場から

加部 一彦（埼玉医科大学医学部総合医療センター小児科教授）

14:50 患者家族の立場から

櫻井 浩子（東京薬科大学薬学部薬学科社会薬学教育センター 生命・医療倫理学研究室教授）

総合討論

◇総合討論座長

高橋 尚人（日本学術会議第二部会員／東京大学医学部附属病院小児・新生児集中
治療部教授）

笹月 桃子（日本学術会議連携会員(特任)／早稲田大学人間科学学術院教授）

15:00 総合討論

16:00 閉会

10. 関係部の承認の有無：第二部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

○学術フォーラム及び土日祝日に講堂を使用するシンポジウム等
【令和7年度第4四半期】総括表

<概要>

1. 日本学術会議主催学術フォーラム

- (1) 経費負担を要するものは、原則として年間15件程度
(2) 経費負担又は職員の人的支援を要するものは、四半期ごとに計4件まで
(3) 土日祝日開催のものは、四半期ごとに2件まで

○今回提案【令和7年度第4四半期】 3件

	提案番号	テーマ	開催希望日時	開催場所	経費負担	職員の 人的支援
1	提案8	「高齢者に優しいまちづくり：現場・自治体から学ぶ」 (企画：健康・生活科学委員会、社会学委員会、環境学委員会、土木工学・建築学委員会)	令和8年 2月7日(土) 13:00～16:00	日本学術会議講堂（ハイブリッド開催）	要	要
2	提案9	「STEM分野の未来を支える多様性とは：教育・探究・キャリアをつなぐ対話—理系の男女差を解決する鍵は、小中教育？家庭？地域？」 (企画：物理学委員会、科学者委員会、情報学委員会、数理学委員会、法学委員会)	令和8年 2月21日(土) 時間調整中	日本学術会議講堂（ハイブリッド開催）	要	要
3	提案10	「くらしを豊かにする化学の力—材料と分析の融合が拓く未来—」 (企画：化学委員会)	令和8年 3月4日(水) 時間調整中	日本学術会議講堂（ハイブリッド開催）	要	要

2. 土日祝日に講堂を使用するシンポジウム等

(1)各年度 32 回まで、及び四半期ごとにおおむね 8 回

(ともに土日祝日開催の日本学術会議主催学術フォーラムを含む)

○今回提案【令和 7 年度第 4 四半期】 2 件

	提案番号	テーマ	開催希望日時	開催場所	経費負担	職員の 人的支援
1	提案 11	「今こそジェンダー主流化を」(仮) (主催：社会学委員会ジェンダー・世代等の交差と包摂分科会)	令和 8 年 2 月 28 日 (土) 13 : 30 ~ 17 : 00	日本学術会議講堂	不要	不要
2	提案 12	「現代の新生児医療における臨床倫理の考え方と医学的意思決定方法」 (主催：臨床医学委員会・健康・生活科学委員会合同出生・発達分科会)	令和 8 年 3 月 1 日 (日) 13:00 ~ 16:00	日本学術会議講堂 (ハイブリッド開催)	不要	不要

(参考) -----

■今回提案を含めた合計数

1. 学術フォーラム（平日 4 件／土日 7 件/開催曜日未定 0 件） 全 11 件

（内訳）※全件について、経費又は人的負担要

		第 1 四半期 (4 月～6 月)	第 2 四半期 (7 月～9 月)	第 3 四半期 (10 月～12 月)	第 4 四半期 (1 月～3 月)
学術フォー ラム	(土日)		2	3	2
	(平日)			3	1
	(開催曜日 未定)				
合計			2	6	3

2. 土日祝日に講堂を使用するシンポジウム等（学術フォーラム含む）全 11 件 残り：21 件

（内訳）

	関連部等	第 1 四半期 (4 月～6 月)	第 2 四半期 (7 月～9 月)	第 3 四半期 (10 月～12 月)	第 4 四半期 (1 月～3 月)
シンポジウム	第一部				1
	第二部		1		1
	第三部			1	
	若手アカデミー				
	課題別				
学術フォーラム（土日）			2	3	2
合計			3	4	4

公開シンポジウム
「生物の多様性と未来をつなぐ育種学ウェビナーシリーズ」
【第2回】多様な育種のかたちⅡ ～畜産/人材育成編～
の開催について

1. 主 催：日本学術会議農学委員会育種学分科会

2. 共 催：なし

3. 後 援：なし

4. 日 時：令和7（2025）年10月24日（金）12:00 ～ 13:30

5. 場 所：オンライン配信

6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無

7. 分科会等の開催：開催予定なし

8. 開催趣旨：

気候変動や人口動態の変化、食料安全保障の課題が顕在化する中で、「育種」は安定した食料生産と社会課題の解決、そして地球環境の保全に直結する重要な領域である。本ウェビナーシリーズでは、作物・畜産・水産など多様な育種分野の第一線の専門家を招き、現場の課題から人材育成・知的財産・社会との関わりまで、多角的に議論する。水産・作物をテーマとして本年6月に開催した第1回に続く今回の第2回では、畜産分野の育種と、次世代の人材育成に焦点を当てる。

9. 次 第：

12:00 開会の挨拶

磯部 祥子（日本学術会議第二部会員／東京大学大学院農学生命科学研究科教授）

12:05 「畜産における育種の現状と展望」

師田 郷太（東京大学大学院農学生命科学研究科准教授）

12:40 「育種人材の育成と課題」

Rex Bernardo (ミネソタ大学 Department of Agronomy and Plant
Genetics 教授)

13:15 総合討論
進行

岩田 洋佳 (日本学術会議連携会員／東京大学大学院農学生命科学研究
科教授)

10. 関係部の承認の有無：第二部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

(下線の講演者等は、主催分科会委員)

公開シンポジウム
「海洋生物と気候変動」（3回シリーズ）
の開催について

1. 主 催：日本学術会議基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同海洋生物学分科会、
地球惑星科学委員会、食料科学委員会水産学分科会、統合生物学委員会・
基礎生物学委員会・地球惑星科学委員会合同自然史・古生物学分科会
2. 共 催：生物科学学会連合
3. 後 援：公益社団法人日本地球惑星科学連合（依頼中）、環境省（依頼中）、文部科学省
4. 日 時：第1回 令和7（2025）年11月10日（月）13:00～16:00
第2回 令和8（2026）年3月8日（日）13:00～16:00
第3回 令和8（2026）年6月7日（日）13:00～16:00
5. 場 所：オンライン開催
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：なし

8. 開催趣旨：

身近な生物を題材にした「海洋生物と気候変動：現状と課題」、「海洋生物と気候変動：解決と適応」、「海洋生物と気候変動：考えるべき倫理」と3回に分けて、一般市民向けにシリーズで公開シンポジウムを開催する。

1回目の「現状と課題」については、北海道や沖縄など、国内や日本周辺海域で顕在化している温暖化の影響に焦点を当てながら、気候変動の現状が海洋生物と生態系に与えている具体的な影響を多面的に検討する。人々の生活や水産業に関連する生物多様性の変化を提示し、緊急的に解決が必要な課題を明らかにする。

2回目「解決と適応」については、気候変動が進行する中で、海洋生態系の再生や適応策を多角的に検討する。特に、ブルーカーボンを含む藻場再生や海洋酸性化への対応策、漁業と生態系サービスの関係について議論する。地域の取り組みや企業の技術的解決策を紹介し、持続可能な海洋利用を促進する方法を探る。

3回目の「考えるべき倫理」については、気候変動の影響を受けた海洋生物保護における人為的介入に対する倫理的な課題を議論する。遺伝的操作や移動分散

(Assisted Evolution)、ブルーカーボンに関連した深海投棄などの技術的解決策がもたらす長期的な影響とリスクに焦点を当て、自然保護の倫理と哲学の確立を目指

す。特に、技術的手法が必要とされる緊急事態とそのリスクのバランスをどう取るかを市民参加型で探る。

9. 次 第：（一重下線：連携会員、二重下線：当分科会委員、太字：女性）

第1回「海洋生物と気候変動：現状と課題」

13:00 開会挨拶・開催趣旨説明

原田 尚美（日本学術会議連携会員／東京大学大気海洋研究所附属国際・地域連携研究センター教授）

13:10 基調講演

○「亜寒帯域の温暖化による沿岸漁業への影響」

高木 聖実（国立研究開発法人水産研究・教育機構水産資源研究所水産資源研究センター社会・生態系システム部沿岸生態系寒流域グループ）

○「沿岸域での海洋熱波の発生メカニズムと生物への影響」

美山 透（国立研究開発法人海洋研究開発機構（JAMSTEC）主任研究員）

○「サンゴ礁と温暖化・海洋酸性化：複合要因による影響」

栗原 晴子（琉球大学理学部海洋自然科学科教授）

14:40-14:50 休憩

14:50 パネルディスカッション「沿岸域の生態系変化と水産業への影響」

<パネリスト>

高木 聖実（国立研究開発法人水産研究・教育機構水産資源研究所水産資源研究センター社会・生態系システム部沿岸生態系寒流域グループ）

美山 透（国立研究開発法人海洋研究開発機構（JAMSTEC）主任研究員）

栗原 晴子（琉球大学理学部海洋自然科学科教授）

<モデレーター>

未定

15:40 質疑応答

16:00 閉会挨拶

安田 仁奈（日本学術会議連携会員／東京大学大学院農学生命科学研究科教授）

第2回「海洋生物と気候変動：解決と適応」

13:00 開会挨拶・開催趣旨説明

原田 尚美（日本学術会議連携会員／東京大学大気海洋研究所附属国際・地域連携研究センター教授）

13:10 基調講演

○「海洋再生プロジェクトと漁業コミュニティの連携」

伊藤 慶子（株式会社 WMI 代表）

○「企業による海洋保護技術の実用化事例」

堀 美智子（レンゴー株式会社研究開発・環境経営推進部門中央研究所長）

○「ブルーカーボン貯留と大気 CO2 除去の統合的理解」

渡辺 謙太（国立研究開発法人海上・港湾・航空技術研究所港湾空港技術研究所主任研究官）

14:40-14:50 休憩

14:50 パネルディスカッション「持続可能な海洋利用のための適応策」

<パネリスト>

伊藤 慶子（株式会社 WMI 代表）

堀 美智子（レンゴー株式会社研究開発・環境経営推進部門中央研究所長）

渡辺 謙太（国立研究開発法人海上・港湾・航空技術研究所港湾空港技術研究所主任研究官）

保全活動 NPO 法人関係者（調整中）

<モデレーター>

未定

15:40 質疑応答

16:00 閉会挨拶

安田 仁奈（日本学術会議連携会員／東京大学大学院農学生命科学研究科教授）

第3回「海洋生物と気候変動：考えるべき倫理」

13:00 開会挨拶・開催趣旨説明

原田 尚美（日本学術会議連携会員／東京大学大気海洋研究所附属国際・地域連携研究センター教授）

13:10 基調講演

○「遺伝的操作と生態系介入の倫理的枠組み」

福永 真弓（東京大学大学院新領域創生科学研究科教授）

○「環境思想史の視点から人為的介入の倫理的課題を考える」

長谷川 健司（東日本国際大学グローバル人財育成研究所講師）

○ 未定

藤井 麻衣（公益財団法人笹川平和財団海洋政策研究所主任）

14:40-14:50 休憩

14:50 パネルディスカッション「持続可能な海洋利用のための適応策」

<パネリスト>

福永 真弓（東京大学大学院新領域創生科学研究科教授）

長谷川 健司（東日本国際大学グローバル人財育成研究所講師）

藤井 麻衣（公益財団法人笹川平和財団海洋政策研究所主任）

<モデレーター>

和田 茂樹（広島大学瀬戸内 CN 国際共同研究センター教授）

15:30 グループディスカッション「技術的解決策と倫理：どこまで許容すべきか？」

16:30 閉会挨拶

安田 仁奈（日本学術会議連携会員／東京大学大学院農学生命科学研究科教授）

10. 関係部の承認の有無：第二部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

公開シンポジウム
「人口減少下の地域福祉と地方自治」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議政治学委員会人口減少下の行政・地方自治分科会、日本地方自治学会
2. 共 催：長野県立大学（会場提供）
3. 後 援：なし
4. 日 時：令和 7（2025）年 11 月 15 日（土）13：30 ～ 16：30
5. 場 所：長野県立大学三輪キャンパス北棟講堂（長野市三輪 8 丁目 49-7）
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：開催予定なし
8. 開催趣旨：

生活困窮者自立支援法等の一部を改正する法律が 2025 年 4 月 1 日から施行されている。この改正法に至る前段階で、厚生労働省は社会保障審議会に生活困窮者自立支援及び生活保護部会を設け、様々な論点について議論してきた。このなかで、「支援を担う体制づくり及び人材育成等について」「生活保護業務の効果的・効率的実施及び不正受給対策について」などが論点として取り上げられている。具体的には、前者は、専門的支援に関する人材不足について都道府県など広域・他機関の助けを借りて研修を実施すること、後者は、ケースワーカーの負担を軽減することなどが議論されており、生活困窮者自立支援法に絡めて育成した人材を生活保護にも活用したいという方向性が見て取れる。

しかし、そもそもは、社会福祉法において福祉事務所や社会福祉主事といった福祉行政に携わる人の専門性及び人数は規定されている。つまり、社会福祉主事は福祉行政の専門職であり、昨今の地方自治体では、様々な形で福祉専門職を採用している。常勤・正規雇用で、困窮者に接する人材を安定的に確保できるという意味で、社会福祉法の規定は重要である一方で、その専門的能力をどう育成するのかについて新味のある議論は見当たらず、従前通りの研修や他機関からの援助が期待されているにすぎない。

こうした問題は福祉行政が抱えている課題の一端に過ぎない。近年、とりわけ生活保護にかかる福祉の現場においては課題が多岐に渡りかつ深刻化しているにもかかわらず、

関係する学問領域間で相互に議論する経路を見いだせていないのが現状である。そもそも、論点設定が困難であることに加え、論点設定できる適切な場も見当たらない。

そこで、本シンポジウムでは、全国的に人口減少と高齢化が避けては通れない与件となっている今、様々な観点から地域における福祉行政にかかる課題を明らかにし、関係する学問領域間での複層的な議論を行うことを目的とする。行政学、社会福祉学、福祉財政、地域福祉に広域的に関わる自治体の現場からそれぞれの論客をそろえ、人口減少下の地域福祉と地方自治について多元的・多角的な検討を試みるものとする。

9. 次 第：

13:30 挨拶

嶋田 暁文（日本学術会議連携会員／九州大学大学院法学研究院教授）

13:35～16:20 報告・質疑

報告 1

「地方分権後の地方政府の構造的障害再考（仮）」

北山 俊哉（日本学術会議連携会員／関西学院大学法学部教授）

報告 2

「長野県における行政体制最適化に向けた取組について」

関 昇一郎（長野県副知事）

報告 3

「生活保護行政から考える地方自治」

岩永 理恵（日本学術会議連携会員／日本女子大学人間社会学部社会福祉学科教授）

報告 4

「地域包括ケアシステムの構築と公民連携」

藤井 えりの（岐阜協立大学経済学部准教授）

16:20 全体総括

森 裕之（立命館大学政策科学部教授）

16:30 閉会

10. 関係部の承認の有無：第一部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

公開シンポジウム
「社会学のアウトリーチ」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議社会学委員会課題解決のための社会理論分科会、一般社団法人
日本社会学会
2. 共 催：なし
3. 後 援：なし
4. 日 時：令和7（2025）年11月16日（日）14：00 ～ 17：00
5. 場 所：一橋大学国立キャンパス（東京都国立市中2－1）
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：開催予定なし
8. 開催趣旨：
近年、学術のアウトリーチ（研究成果の社会的還元・普及活動）や社会実装への関心が高まっている。社会学に関してもこれは例外ではなく、社会学の分析視角、理論、研究手法等を活かした研究成果が、現実社会のさまざまな課題・問題の理解や解決にどのように貢献し得るのかに、多くの関心を持たれるようになっている。
こうした状況を踏まえ、本シンポジウムでは、社会学がどのように現実社会と関わり、社会的な還元を果たし得るのかを、社会学とその視角に基づく貴重な実践を行っている方々の報告とディスカッションを通じて考えていくことを試みる。具体的には、現代社会における生きづらさ、差別、災害、幸せと政策立案に関する各分野から4名の報告者に登壇頂き、社会学とその視角・理論等が、社会課題・問題の理解や解決にどのように貢献し得るのかに関してご報告頂く。それに続く2名の討論者からのコメント、ならびに参加者との質疑応答を契機として議論がなされ、本シンポジウムを通じて、社会学のアウトリーチとその展開可能性について新たな理解が得られることを期待したい。
9. 次 第：
総司会：遠藤 薫（日本学術会議連携会員／学習院大学名誉教授）
挨拶

- 14:00 開会の挨拶
山田 真茂留（日本学術会議連携会員／早稲田大学文学学術院教授）
 開催趣旨説明
 遠藤 薫（日本学術会議連携会員／学習院大学名誉教授）
- 報告
- 14:05 「社会学研究を社会にどう還元するかー〈生きづらさ〉の臨床社会学より」
 中村 英代（日本大学文理学部教授）
 「被差別当事者の人生体験の語りを聞くー『ハンセン病家族訴訟』の伴走者として」
 黒坂 愛衣（東北学院大学地域総合学部教授）
 「社会学ならではの災害をめぐる研究と実践ー東日本大震災被災地と継続的に関わってきた経験を中心に」
 野坂 真（青森公立大学経営経済学部准教授）
 「社会学は日本政府の政策を改善できるか？ー実態・可能性・課題」
 柴田 悠（京都大学大学院人間・環境学研究科教授）
- 休憩
- 15:25
- 討論
- 15:35 渡邊 雅子（日本学術会議連携会員／名古屋大学大学院教育発達科学研究科教授）
中村 高康（日本学術会議連携会員／東京大学大学院教育学研究科教授）
- 総合討論
- 15:55
- 討論司会
筒井 淳也（日本学術会議連携会員／立命館大学産業社会学部教授）
有田 伸（日本学術会議第一部会員／東京大学社会科学研究所教授）
- 挨拶
- 16:55 閉会の挨拶
 遠藤 薫（日本学術会議連携会員／学習院大学名誉教授）

10. 関係部の承認の有無：第一部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

公開シンポジウム
「今求められる水田の地力向上と病害虫・雑草防除を考える」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議農学委員会植物保護科学分科会、土壌科学分科会、農学委員会・食料科学委員会合同 IUSS 分科会
2. 共 催：日本植物保護科学連合
3. 後 援：一般社団法人日本土壌肥料学会（予定）
4. 日 時：令和 7（2025）年 11 月 29 日（土）13：00～17：00
5. 場 所：オンライン開催
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会の開催：あり

8. 開催趣旨：

日本人のコメ消費量は年々減少しているが、昨年来のコメの供給不足は価格高騰とともに大きな社会不安をもたらし、増産に向けて政策転換も図られている。一方で、世界的な人口増加や異常気象の中で食料の安定供給は一層重要な課題となっており、それを可能にする技術開発が強く望まれている。コメ増産達成に向けては多くの課題があるが、本シンポジウムでは、安定で持続的なコメ生産に必要な技術について取り上げる。コメの安定生産の基盤となる土壌の地力に加え、食害昆虫、病原菌、雑草による害からの防御の観点から、今求められる技術や課題について討議し、理解を深める。

9. 次 第：

13:00 開会挨拶

渡辺 京子（日本学術会議第二部会員／玉川大学農学部教授）

13:10 「水田の地力の特性とその情勢および課題」

西田 瑞彦（東北大学大学院農学研究科教授）

座長：藤井 一至（日本学術会議連携会員／福島国際研究教育機構土壌ホメオスタシス研究ユニットリーダー）

13:45 「温暖化に伴い発生が拡大する病害に対する抵抗性品種・育種素材の開発」

溝淵 律子（国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構作物研究部門グループ
長補佐）

座長：中馬 いづみ（帯広畜産大学人間科学研究部門准教授）

14:20 「イネカメムシ問題の顕在化と対策」

石島 力（国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構中日本農業研究センター
上級研究員）

座長：大井田 寛（法政大学生命科学部教授）

15:10 「イネの複合病虫害抵抗性機構の解明と強化」

森 昌樹（国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構生物機能利用研究部門元
ユニット長）

座長：米山 香織（埼玉大学研究機構准教授）

15:45 「水稻乾田直播栽培における雑草防除の取り組みと課題」

赤坂 舞子（宇都宮大学雑草管理教育研究センター准教授）

座長：三浦 恒子（秋田県農業試験場主任研究員）

16:20 「イネの安定生産に向けて農薬が果たす役割ー持続可能な害虫防除技術の開発ー」

坂本 えみ子（住友化学株式会社アグロ&ライフソリューション研究所主任研究員）

座長：與語 靖洋（公益財団法人日本植物調節剤研究協会技術顧問）

16:55 まとめと閉会挨拶

松本 宏（日本学術会議連携会員／筑波大学名誉教授）

10. 関係部の承認の有無：第二部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

公開シンポジウム
「第 15 回計算力学シンポジウム」の開催について

1. 主 催：日本学術会議総合工学委員会・機械工学委員会合同計算科学シミュレーションと工学設計分科会
2. 共 催：一般社団法人可視化情報学会、特定非営利活動法人 CAE 懇話会、一般社団法人日本応用数理学会、一般社団法人日本機械学会、一般社団法人日本計算工学会、日本計算数理工学会、日本計算力学連合、一般社団法人日本シミュレーション学会、アジア太平洋計算力学連合 (Asian Pacific Association for Computational Mechanics ; APACM) 、国際計算力学連合 (International Association for Computational Mechanics ; IACM)
3. 日 時：令和 7 (2025) 年 12 月 2 日 (火) 9 : 55 ~ 17 : 30
4. 場 所：日本学術会議講堂（東京都港区六本木 7-22-34）（ハイブリッド開催）
5. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
6. 分科会等の開催：開催予定あり
7. 開催趣旨：
我が国を代表する計算力学関連学会が一堂に会し、各学会を代表する若手研究者が最新の成果を披露します。日本における広い分野の計算力学研究と活用の成果を、まとめて聞くことができる貴重な機会です。さらに、特別企画「防災・減災に向けてこれからの計算力学」を開催いたします。日本は災害列島と呼ばれるほど様々な災害に繰り返しみまわれています。地球温暖化の影響と思われる気象災害、東南海地震、関東直下型地震からは免れようがなく、防災、減災のために様々な取り組みがなされています。より精度の高い気象、地震、土砂、水害災害の予測が求められ、計算力学もその一翼を担い、大きな割を果たしています。様々な分野の防災、減災の最前線のご講演と今後の計算力学の発展について討論を行います。
8. 次 第：
総合司会：植田 毅（東京慈恵会医科大学学術情報センター教授）
9 : 55-10 : 00 開会の辞：

坪倉 誠（日本学術会議連携会員／神戸大学大学院システム情報学研究科教授／国立研究開発法人理化学研究所計算科学研究センターチームリーダー）

第 I 部 若手研究者による講演

10：00-10：20 講演 1（日本計算力学連合）

寺原 拓哉（早稲田大学グリーン・コンピューティング・システム研究機構次席研究員）
「弁修復術開発のための心臓弁の開閉を直接解像した心臓内血流解析」

10：20-10：40 講演 2（日本応用数理学会）

石井 勲（京都大学理学研究科附属サイエンス連携探索センター特定准教授）
「（タイトル未定）」

10：40-11：00 講演 3（日本計算工学会）

西口 浩司（名古屋大学大学院工学研究科土木工学専攻准教授）
「3D 生成 AI は構造設計をどう変えるか：「富岳」による超多ケース衝突解析に基づく潜在空間での設計探索」

11：00-11：20 講演 4（日本機械学会計算力学部門）

見波 将（京都大学大学院工学研究科機械理工学専攻助教）
「能動的機械学習とハイスループット第一原理計算によるデータ駆動型新奇材料物性探索技術の開発」

11：20-11：40 講演 5（CAE 懇話会）

関 大河（AGC 先端技術研究所シニアマネージャー）
「ガラス溶解プロセスにおけるデジタルツイン技術開発」

11：40-13：10 昼休み

13：10-13：30 講演 6（日本計算数理工学会）

松島 慶（広島大学大学院先進理工系科学研究科助教）
「音響・弾性波動に関連する数値計算と最適設計」

13：30-13：50 講演 7（可視化情報学会）

村上 綾菜（お茶の水女子大学大学院博士後期課程理学専攻情報科学領域 2 年）
「力学モデルを用いたグラフ可視化のための最適化手法の適用」

13：50-14：10 講演 8（日本シミュレーション学会）

倉橋 貴彦（長岡技術科学大学工学研究科機械系教授）
「逆解析手法に基づくコンクリート構造内の欠陥同定解析」

14：10-14：20 休憩

第 II 部 特別企画「防災・減災に向けてこれからの計算力学」

モデレータ 小槻 峻司（千葉大学国際高等研究基幹教授）

14：20-14：50 特別講演 1

沢田 雅洋（気象庁情報基盤部数値予報課数値予報モデル基盤技術開発室線状降水帯予測技術開発官）

「線状降水帯に関するシミュレーション」

14：50-15：20 特別講演 2

溝口 敦子（名城大学理工学部社会基盤デザイン工学科教授）

「河川で起こる現象を知り、災害に備える ～計算工学への期待～」

15：20-15：50 特別講演 3

松澤 孝紀（国立研究開発法人防災科学技術研究所巨大地震災害研究領域地震津波複合災害研究部門主任研究員）

「大地震とスロー地震発生の数値シミュレーション —南海トラフ・関東地域への適用—」

15：50-16：20 特別講演 4

大石 裕介（富士通研究所プロジェクトディレクター）

「防災 DX に向けたシミュレーションと AI の活用」

16：25-17：25 総合討論

パネリスト： 第 II 部特別講演者 4 名及び、高橋 桂子（日本学術会議連携会員／早稲田大学ナノ・ライフ創新研究機構規範科学総合研究所上級研究員／研究院教授）

17：25-17：30 閉会の辞

越塚 誠一（日本学術会議第三部会員／東京大学大学院工学系研究科システム創成学専攻教授）

9. 関係部の承認の有無：第三部承認

10. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

日本学術会議九州・沖縄地区会議学術講演会
「半導体が創る熊本の未来」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議九州・沖縄地区会議
2. 共 催：熊本大学
3. 後 援：熊本県、熊本市（予定）
4. 日 時：令和7（2025）年12月5日（金）15：00 ～ 16：55
5. 場 所：熊本大学工学部百周年記念館
（熊本県熊本市中央区黒髪2丁目39番1号）（ハイブリッド開催）
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：無

8. 開催趣旨：

近年、半導体産業は、私たちの生活だけでなく社会全体を大きく変える力を持っています。特に熊本県では、TSMCの進出を筆頭に半導体関連企業の集積が急速に進んでおり、地域経済、教育、文化、そして学術研究にも計り知れない影響をもたらそうとしています。本講演会では、熊本大学がこの大きな変革の中でどのような学術振興を推進し、地域と共に未来を創造していくのかに焦点を当てます。半導体が切り開く新たな可能性を理解し、熊本の持続可能な未来を築くための議論の場を提供いたします。

9. 次 第：

15:00～15:10 開会挨拶

日比谷 潤子（日本学術会議副会長・第一部会員／国際基督教大学名誉教授）

小川 久雄（国立大学法人熊本大学長）

15:10～15:40 講演1

平井 寿敏（熊本県産業技術センター・所長）（30分間）

15:40～15:50 休憩

15:50～16:20 講演2

大川 猛（熊本大学半導体・デジタル研究教育機構・教授）（30分間）

16:20～16:50 講演3

細野 高啓（熊本大学大学院先端科学研究部・教授）（30分間）

※各講演にはそれぞれ5分間の質疑応答を含む。

16:50～16:55 閉会挨拶

内田 誠一（日本学術会議第三部会員・九州・沖縄地区会議代表幹事／九州大学大学院システム情報科学研究院教授）

司会進行：西山 忠男（日本学術会議連携会員／熊本大学大学院先端科学研究部名誉教授・ダイバーシティ推進室特定事業教員）

10. 関係部の承認の有無：科学者委員会

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

12. 備 考：

ダイバーシティの観点から、登壇者の性別に偏りがないよう検討を進めましたが、熊本大学（共催校）の女性連携会員2名が学会参加のため会議当日に登壇できないこと、また、他大学の研究者の登壇も検討したものの、「半導体」というテーマに関係する女性研究者が必ずしも多くないこともあり、講演会のテーマに沿った女性研究者に出席いただくことが困難なことから、今回は女性登壇者に出席いただくことができませんでした。このような事情により、連携会員でもある熊本大学ダイバーシティ推進室の男性教員に司会進行役として登壇いただくことになりました。

（下線の講演者等は、主催地区会議所属の会員・連携会員）

公開シンポジウム
「動物の安楽死を考える II」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議食料科学委員会・基礎医学委員会合同獣医学分科会、食料科学委員会・農学委員会合同食の安全分科会
2. 共 催：公益社団法人日本法獣医学会
3. 後 援：なし
4. 日 時：令和 7（2025）年 12 月 6 日（土）15：00 ～ 17：00
5. 場 所：オンライン開催
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：開催予定なし

8. 開催趣旨：

動物に関わる倫理的な諸問題は、現在の社会の大きな関心事となり、広く認知されつつあります。中でも、「安楽死」により、動物を不必要な疼痛や苦痛・苦悩から如何に解放するかについては、その是非も交えて様々な議論が行われてきました。本シンポジウムでは、動物の「安楽死」について専門家から現場における状況と安楽死に関する意見を聞き、科学的な根拠と手法に関しての議論を行います。

9. 次 第：

<司会> 木村 享史（北海道大学大学院獣医学研究科教授）

15:00 開会の挨拶

堀 正敏（日本学術会議第二部会員／東京大学大学院農学生命科学研究科獣医薬理学研究室教授）

15:05 「動物の安楽死の動向」

田中 亜紀（日本獣医生命科学大学獣医学部獣医学科特任教授）

15:15 「伴侶動物の安楽死」

遠山 潤（新潟県動物愛護センター技術専門員）

15:35 「動物の安楽死と法」

諸坂 佐利（神奈川大学法学部自治行政学科教授）

15:55 「展示動物の安楽死」
松本 直也（札幌市円山動物園動物専門員）

16:15 「WOAH の動物福祉に関する取り組みの現状」
釘田 博文（国際獣疫事務局（WOAH）アジア太平洋地域代表）

16:35 総合討論

<モデレーター>

高橋 真吾（東京都保健医療局健康安全部健康安全調整担当課長）

<パネリスト>

堀 正敏（日本学術会議第二部会員／東京大学大学院農学生命科学研究科獣医薬理学研究室教授）

田中 亜紀（日本獣医生命科学大学獣医学部獣医学科特任教授）

遠山 潤（新潟県動物愛護センター長）

諸坂 佐利（神奈川大学准教授）

松本 直也（札幌市円山動物園動物専門員）

釘田 博文（国際獣疫事務局（WOAH）アジア太平洋地域代表）

17:00 閉会の挨拶

石塚 真由美（日本学術会議連携会員／北海道大学獣医学研究院教授）

10. 関係部の承認の有無：第二部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

公開シンポジウム
「スポーツとは何か ― 科学が問いかける身体、社会が求める共生」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議健康・生活科学委員会健康・スポーツ科学分科会
2. 共 催：日本スポーツ体育健康科学学術連合（JAASPEHS）
3. 後 援：スポーツ庁、公益財団法人日本オリンピック委員会（JOC）、公益財団法人日本スポーツ協会（JSP0）、独立行政法人日本スポーツ振興センター（JSC）、公益財団法人スペシャルオリンピックス日本、一般社団法人日本体育・スポーツ・健康学会、公益財団法人日本パラスポーツ協会（JPSA）、一般財団法人上月財団（すべて予定）
4. 日 時：令和 7（2025）年 12 月 7 日（日）13：00 ～ 17：00
5. 場 所：早稲田大学リサーチ・イノベーション・センター（121 号館）地下 1 階コマツ 100 周年記念ホール（東京都新宿区早稲田鶴巻町 513）（ハイブリット開催）
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：開催予定あり
8. 開催趣旨：

スポーツを取り巻く環境は著しく変化している。そこで本シンポジウムでは「スポーツとは何か」という根源的な問いに改めて向き合い、議論をしていく（全 3 回の開催を予定）。本年 6 月 21 日に開催した第 1 回は「スポーツを取り巻く情報とテクノロジー」について取り上げて情報共有および議論を行った。

今回（第 2 回）は、多様な人々が楽しむスポーツ環境の構築においては、身体に介入する科学の入口としてのスポーツのあり方を考える。第 1 部では、ドーピングとゲノム情報の視点からの議論を通し、「身体の豊かさ」とはどのようなことか、スポーツはこの側面から社会全体の発展にいかに関与することができるかを展望する。第 2 部では、現代のスポーツ・運動実践は、無意識のうちに「できる/できない」「健常/障がい」といったラベルに基づいて構築されてきた側面があることに着目する。「ひとを障がい者として分類するみえない力」にスポーツはどのように向き合えるのかを問い、分類の「有用性」と「限界」の両側面から、医療・福祉・教育の現場での実践や課題を共有する。最終的に、誰もが「共

に楽しめるスポーツの機会」とは何か、そしてそれがもたらす「豊かさ」とは何かを参加者と共に考える。

9. 次 第：

挨拶

13:00 開会挨拶

山口 香（日本学術会議第二部会員／筑波大学体育系教授）

第一部「身体に介入する科学とスポーツ：ドーピングとゲノム情報の視点から考える」

◇第一部総合司会

來田 享子（日本学術会議連携会員／中京大学スポーツ科学部教授）

13:10 『ドーピングに関わる科学の最前線・エンハンスドゲームズの登場』

赤間 高雄（早稲田大学スポーツ科学学術院教授／公益財団法人日本アンチ・ドーピング機構会長）

13:30 『遺伝医学の進展と倫理的・社会的課題』

三宅 秀彦（日本学術会議連携会員／お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科教授）

13:50 『ゲノム情報はスポーツする身体に何をもたらすか』

石井 哲也（日本学術会議連携会員（特任）／北海道大学安全衛生本部教授）

14:10 『身体に介入する科学に関する人権と法的ルールの実状と課題』

建石 真公子（日本学術会議連携会員／法政大学名誉教授）

休憩（15分）（14：30～14：45）

第二部「見えない境界を越えるスポーツ：多様なひとたちと共に生きる機会の創造」

◇第二部総合司会

朝田 芳信（日本学術会議連携会員／鶴見大学歯学部小児歯科学講座教授）

14:45 『診断名の先にある個別の可能性を拓く』

藤原 清香（東京大学医学部附属病院准教授）

15:05 『神経発達症児童の遊びを通じた発達支援、特別支援学校の地域部活動の取り組み』

広瀬 統一（日本学術会議連携会員／早稲田大学スポーツ科学学術院教授）

15:25 『よかよか、ごちゃまぜ、共に生きる：インクルーシブが社会を豊かにする』

堀川 直希（医療法人コミュニテ風と虹のぞえの丘病院院長）

休憩（10分）（15：45～15：55）

総合討論「誰もが参加できるスポーツとは、それがもたらす豊かさとは」

総合討論司会

宮地 元彦（日本学術会議連携会員／早稲田大学スポーツ科学学術院教授）

15:55 総合討論

17:00 閉会の挨拶

宮地 元彦（日本学術会議連携会員／早稲田大学スポーツ科学学術院教授）

10. 関係部の承認の有無：第二部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

日本学術会議中部地区会議学術講演会
「これからのモビリティと社会受容性 ～自動運転実用化への課題と挑戦」 (仮題)
の開催について

1. 主 催：日本学術会議中部地区会議
※中部8県の大学が持ち回り開催 (年2回)
2. 共 催：名古屋大学
3. 協 力：名古屋大学未来社会創造機構モビリティ社会研究所 (予定)、
名古屋大学 COI-NEXT マイモビリティ共創拠点 (予定)
4. 後 援：なし
5. 日 時：令和7年12月12日 (金) 13:00～ 16:40 (予定)
※同日の午前中に中部地区会議運営協議会、科学者懇談会各県幹事との打合せ会を開催
6. 場 所：名古屋大学坂田・平田ホール (愛知県名古屋市千種区不老町) (仮)
(ハイブリッド開催)
7. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
8. 分科会等の開催：無

9. 開催趣旨：

わが国では高齢化の進展や深刻化する人手不足を背景に、移動をめぐる社会課題が顕在化している。地方においては公共交通の縮小が進み、都市部においても過度な交通負担や安全確保の問題が生じるなど、モビリティの持続可能性に危機が迫っている。

このような状況に対し、自動運転技術は有力な解決手段として注目されている。高齢者や交通弱者を含む幅広い人々の移動を支え、物流や都市インフラの効率化を促すことで、社会全体に大きな変革をもたらす可能性を秘めている。

しかしながら、その実用化にあたっては、技術的課題のみならず、安全性の確保、法制度の整備、倫理的な配慮、そして社会的信頼の醸成といった「社会受容性」の課題が残されている。技術がいかに進展しても、社会に受け入れられなければ普及には至らない。

本講演会は、工学、法学、社会科学など多様な視点から自動運転を中心とする次世代モビリティの可能性と課題を議論するとともに、日本学術会議および中部地区の大学にお

ける取り組みを広く紹介し、持続可能なモビリティ社会の実現に向けて知を共有・発信することを目的とする。

10. 次 第：

(1) 13:00～13:10 開会挨拶

杉山 直（日本学術会議第三部会員／名古屋大学総長）

(2) 13:10～13:20 開会挨拶

三枝 信子（日本学術会議副会長・第三部会員／国立研究開発法人国立環境研究所理事）

(3) 13:20～13:30 主催者挨拶

高田 広章（日本学術会議第三部会員・中部地区会議代表幹事／名古屋大学未来社会創造機構教授）

(4) 13:30～13:40

・科学者との懇談会活動報告

松田 正久（中部地区科学者懇談会幹事長／愛知教育大学名誉教授、元学長）

・日本学術会議第 195 回総会を傍聴して

和田 肇（中部地区科学者懇談会愛知県幹事／名古屋大学名誉教授）

(5) 13:40～16:30 学術講演会の演題及び演者

「これからのモビリティと社会受容性 ～自動運転実用化への課題と挑戦」（仮題）

・中野 公彦（東京大学生産技術研究所教授）

※第 25 期自動運転の社会実装と次世代モビリティによる社会デザイン検討委員会幹事、第 25 期特任連携会員

「自動運転の社会実装と次世代モビリティによる社会デザイン（仮題）」

・菅沼 直樹（金沢大学高度モビリティ研究所教授）

※講演タイトル未定（講演テーマ：自動車運転技術とその安全性について（技術面の現況について））

・中川 由賀（中川法律経営事務所弁護士、中京大学法学部教授、名古屋大学未来社会創造機構客員教授）

「自動運転の社会実装のあり方～日米の法制度比較から考える」

・森川 高行（名古屋大学未来社会創造機構特任教授・名誉教授、名古屋大学 COI-NEXT マイモビリティ共創拠点長・PL）

「モビリティイノベーションがもたらす街と社会へのインパクト」

・質疑・まとめ

(6) 16:30～16:40 閉会挨拶

野口 晃弘（日本学術会議第一部会員・中部地区会議運営協議会委員、南山大学経

営学部経営学科教授)

司会：高田 広章（日本学術会議中部地区会議代表幹事）

11. 関係部の承認の有無：科学者委員会

12. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線の講演者等は、主催地区会議所属の会員・連携会員）

市民公開講座
「ゲノム情報・医療情報・生体試料の共有を巡ってー展望と課題ー」
の開催について

1. 主 催：統合生物学委員会・基礎生物学委員会・基礎医学委員会合同ゲノム科学分科会、臨床医学委員会臨床ゲノム医学分科会
2. 共 催：一般社団法人日本人類遺伝学会
3. 後 援：DDBJ センター、令和7年度厚生労働科学研究費補助金がん対策推進総合研究事業「ゲノム情報に応じたがん予防にかかる指針の策定と遺伝性腫瘍に関する医療・社会体制の整備および国民の理解と参画に関する研究」、科学研究費学術変革領域研究 A「各国憲法や各国生命倫理法等の比較に基づく尊厳概念の法的分析」
4. 日 時：令和7（2025）年12月20日（土）15:30～17:30
5. 場 所：パシフィコ横浜会議センター 5F 503（ハイブリッド開催）
（神奈川県横浜市西区みなとみらい1-1-1）
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：開催予定なし
8. 開催趣旨：
医療の進歩や健康増進を実現するための研究・開発において、ゲノム情報を含むさまざまな医療情報や試料の共有が極めて重要である。一方、その利活用にあたって配慮すべき倫理的・法的・社会的課題も大きい。この市民公開講座では、これらの領域の専門家が集い、現状と今後の方策を議論する。
9. 次 第：

15:30 挨拶・座長

徳永 勝士（日本学術会議連携会員／国立健康危機管理研究機構国立国際医療研究所プロジェクト長）

伊藤 隆司（日本学術会議連携会員／九州大学生体防御医学研究所特任教授）

15:35 『The establishment of human disease biobanks and their contribution to medicine and healthcare』

後藤 雄一（国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター・理事長特任補佐）

15:56 『The importance of genomic information in medicine』

平沢 晃（日本学術会議連携会員／岡山大学学術研究院医歯薬学域教授）

16:17 『The act on the Protection of Personal Information and data utilization』

宍戸 常寿（東京大学大学院法学政治学研究科教授）

16:38 『Protection of fundamental rights in the utilization of human genome information: Case of Protection systems in Europe』

建石 真公子（日本学術会議連携会員／法政大学名誉教授）

16:59 『FAIR and CARE reuse of personal genomes through databases』

有田 正規（日本学術会議連携会員／大学共同利用機関法人情報・システム研究機構国立遺伝学研究所教授）

17:20 総合討論

17:30 閉会

10. 関係部の承認の有無：第二部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

公開シンポジウム
「日本文学と藍」の開催について

1. 主 催：日本学術会議言語・文学委員会日本文学の伝統と現代社会分科会
2. 共 催：京都芸術大学
3. 日 時：令和 8（2026）年 1 月 25 日（日）13：00～17：00
4. 場 所：京都芸術大学（京都府京都市左京区北白川瓜生山 2－116）
5. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
6. 分科会等の開催：開催予定あり

7. 開催趣旨：

江戸時代、藍は産業として日本全国に広がり、江戸の街では「藍四十八色」が誕生して、鮮やかな藍色が人々を魅了した。明治後期に安価で手軽な化学染料の登場によって危機に瀕したものの、現在ふたたびその素晴らしさに目が向けられ、ジャパン・ブルーと呼ばれて世界でも高く評価されている。本シンポジウムでは、そうした藍の色が、文学の中でどのようなイメージをもって捉えられてきたのか、奈良時代から現代にいたるまでのさまざまな文学作品を通して考え、日本人の色彩感覚や文化背景、生活と藍との関わりを探る。

京都芸術大学が進める、藍染作家と共に歴史をひもとき、「藍四十八色」を再現する取組、藍と共に生きる人々の暮らしやものづくりを、写真や映像で表現し次世代へ届ける取組、藍を生かした新たな ART 作品を創り上げる取組といった実践的な活動に、人々の心性を歴史的に幅広く辿ることのできる文学作品を通じた文献学的方法で、藍の世界を総合的にとらえる本シンポジウムを対置することで、一つの素材に対する多角的な見方を提示するものである。

8. 次 第：

13：00 挨拶 梅崎 由起子（藍染作家／京都芸術大学講師）

13：05 講演 「日本古典文学に見る藍」

植木 朝子（日本学術会議第一部会員／同志社大学文学
部国文学科教授）

（休憩 15 分）

14 : 30 講演 「日本近現代文学に見る藍」

有元 伸子（日本学術会議連携会員／広島大学名誉教授）

（休憩 20 分）

16 : 00 討論 吉岡 洋（日本学術会議第一部会員／京都芸術大学文明哲
学研究所教授）

植木 朝子（日本学術会議第一部会員／同志社大学文学部国文学科
教授）

有元 伸子（日本学術会議連携会員／広島大学名誉教授）

9. 関係部の承認の有無：第一部承認

10. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

公開シンポジウム
「みる・きく・はなすの老化と視覚・聴覚最先端治療」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議臨床医学委員会感覚器分科会
2. 共 催：なし
3. 後 援：一般社団法人日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会、公益財団法人日本眼科学会
4. 日 時：令和8（2026）年2月14日（土）13：00 ～ 15：30
5. 場 所：オンライン開催
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：開催予定あり

8. 開催趣旨：

超高齢社会において、視覚・聴覚・発声・嚥下といった感覚器機能の低下は、生活の質や社会参加に大きな影響を及ぼします。声のかすれや嚥下障害、聞こえの低下、視力の衰えは日常生活に支障をきたし、さらには認知機能の低下とも密接に関連することが知られています。これらの問題に正面から向き合うことは、健康寿命の延伸や高齢者の自立支援に直結する喫緊の課題です。

本シンポジウムでは、まず「のど（発声・嚥下）」および「眼」における加齢性変化の実態を専門家が解説し、続いて「難聴」や「視力低下」が認知機能に及ぼす影響について最新の知見を共有します。さらに、人工聴覚器や光遺伝学を用いた視覚再生といった最先端の治療法にも焦点を当て、感覚機能障害の克服に向けた新たな可能性を議論します。

本シンポジウムを通じて、加齢に伴う感覚器障害の理解を深めるとともに、その克服に向けた医療・科学の進展を社会と共有し、超高齢社会にふさわしい健康で活力ある生活の実現に貢献することを目指します。

9. 次 第：

◇司会

山 岨 達也（日本学術会議連携会員／東京逋信病院病院長）

寺崎 浩子（日本学術会議連携会員／名古屋大学未来社会創造機構特任教授）

13:00 開会のあいさつ

西田 幸二（公益財団法人日本眼科学会理事長／大阪大学大学院医学系
研究科教授）

13:05 加齢による機能障害：のどの加齢

熊井 良彦（長崎大学大学院耳鼻咽喉・頭頸部外科教授）

13:25 加齢による機能障害：眼の加齢

根岸 一乃（日本学術会議連携会員／慶應義塾大学医学部眼科学教室教
授）

13:45 コメント・ディスカッション

ファシリテーター：

松本 有（日本学術会議連携会員／東京警察病院耳鼻咽喉科部長）

五味 文（日本学術会議第二部会員／兵庫医科大学眼科学講座主任教授）

外園 千恵（日本学術会議連携会員／京都府立医科大学眼科教授）

13:50 認知機能と感覚器疾患：難聴

内田 育恵（愛知医科大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科学特任教授）

14:10 認知機能と感覚器疾患：視力低下

平塚 義宗（順天堂大学医学部先任准教授）

14:30 コメント・ディスカッション

ファシリテーター：

松本 有（日本学術会議連携会員／東京警察病院耳鼻咽喉科部長）

五味 文（日本学術会議第二部会員／兵庫医科大学眼科学講座主任教授）

外園 千恵（日本学術会議連携会員／京都府立医科大学眼科教授）

休憩（5分）（14：35～14：40）

14:40 感覚機能障害の回復治療最先端：人工聴覚器

工 穰（信州大学医学部医学科耳鼻咽喉科頭頸部外科学教授）

15:00 感覚機能障害の回復治療最先端：光遺伝学を用いた視覚再生

栗原 俊英（慶應義塾大学医学部眼科学教室准教授）

15:20 コメント・ディスカッション

ファシリテーター：

松本 有（日本学術会議連携会員／東京警察病院耳鼻咽喉科部長）

五味 文（日本学術会議第二部会員／兵庫医科大学眼科学講座主任教授）

外園 千恵（日本学術会議連携会員／京都府立医科大学眼科教授）

15:25 閉会のあいさつ

大森 孝一（一般社団法人日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会理事長／京都
大学大学院医学研究科耳鼻咽喉科・頭頸部外科学教授）

10. 関係部の承認の有無：第二部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

(下線の講演者等は、主催分科会委員)

公開シンポジウム
「動物科学の最前線：めくるめく多様性を科学する（４）」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同動物科学分科会
2. 共 催：学術変革領域研究(A) 共進化表現型創発、ERATO 深津共生進化機構プロジェクト
3. 後 援：なし
4. 日 時：令和 8（2026）年 2 月 15 日（日）13：00 ～ 16：00
5. 場 所：オンライン開催
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：開催予定なし

8. 開催趣旨：

様々な動物とそれらを取り巻く環境との関係や、共生に代表される多様な生物間の相互作用に関する研究成果は、誰もが動物科学の面白さを体感でき、理解を広げる窓口となるトピックスである。

2022 年より「動物科学の最前線：めくるめく多様性を科学する」のタイトルで開催してきている本シンポジウムでは、学生から一般社会の方々までを広く対象として、動物の多様性、生態、進化などに関する最新の研究成果を分かりやすく魅力的に解説することにより、動物科学の普及及び振興を目指す。

9. 次 第：

13:00-13:05 開会の辞

深津 武馬（日本学術会議連携会員／国立研究開発法人産業技術総合研究所首席研究員）

13:05-13:35 「キリンの身体に秘められた謎を解く－動物園・博物館・大学の連携研究－」

郡司 芽久（東洋大学生命科学部生命科学科助教）

13:35-14:05 「寄生性甲殻類フクロムシの生物学」

豊田 賢治（広島大学大学院統合生命科学研究科助教）
14:05-14:35 「寄生虫ハリガネムシ類による寄主昆虫の行動操作」
佐藤 拓哉（京都大学生態学研究センター准教授）
14:35-14:45 （休憩）
14:45-15:15 「昆虫が植物の形を操作する－アブラムシにおける社会性と虫こぶ形成－」
沓掛 磨也子（国立研究開発法人産業技術総合研究所細胞分子工学研究部門副研究
部門長）
15:15-15:45 「シジュウカラ語の発見と動物言語学の挑戦」
鈴木 俊貴（東京大学先端科学技術研究センター准教授）
15:45-15:55 総合討論
（司会）入江 直樹（日本学術会議連携会員／総合研究大学院大学統合進化科学研究セン
ター教授）
15:55-16:00 閉会の辞
志賀 向子（日本学術会議連携会員／大阪大学大学院理学研究科教授）

10. 関係部の承認の有無：第二部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

○国内会議の後援（1件）

以下について、後援の申請があり、関係する部に審議付託したところ、適当である旨の回答があったので、後援することとしたい。

1. 第20回医療の質・安全学会学術集会

主催：一般社団法人医療の質・安全学会

期間：令和7年11月8日（土）～11月9日（日）

場所：京都市勧業館みやこめっせ

参加予定者数：約3,000名

申請者：一般社団法人医療の質・安全学会 理事長 中島 和江

第20回医療の質・安全学会学術集会 大会長 松村 由美

審議付託先：第二部

審議付託結果：第二部承認

○今後の予定

●幹事会

第393回幹事会	令和7年10月27日（月） （第195回総会期間中に開催）	17：00から
第394回幹事会	令和7年11月27日（木）	14：30から
第395回幹事会	令和7年12月23日（火）	14：30から
第396回幹事会	令和8年1月27日（火）	14：30から
第397回幹事会	令和8年2月27日（金）	14：30から
第398回幹事会	令和8年3月23日（月）	10：00から

●総会

第195回総会	令和7年10月27日（月）～29日（水）
---------	----------------------